



発行所 青山同窓会
新潟市関屋下川原町二
新潟高校内
印刷所 オリオン印刷機

希望の年でありますように

青山同窓会会長 鍵富清一郎



おめでとうございます。皆さんのご協力で、同窓会も年々盛んになり、喜ばしいことであります。
同窓会は、利害得失に関係なく世代の差にかわりなく老いも若きも自由に語りあい、酒をくみかわす楽しい場です。この楽しさをかたりつけて、新潟の総会にも、東京にまげず若い人達や女性会員にもどんどん出席してもらいたいと、年の始めに思ったことあります。

新任挨拶

がんばりますのでよろしく

副会長 37回 鈴木 木正一

(第四銀行頭取)



昨年七月十六日の総会におきまして、副会長に選出され就任致しました鈴木でございます。

六月始め頃でしたか、鍵富会長さんと等々力副会長さんから、先般じくなられた宮尾副会長さんの補充が未だついていないので、是非引受けるようお話があり、同窓

会には殆んど顔を出したことも、またお手伝をしたこともなく、その任でないことは充分承知しておりましたが、鍵富さんにはロータリークラブ関係で、等々力さんには商工会議所関係で始終我儘を云ってお世話になっておりますので、覚悟をきめて、総会で選出されたら阿部、等々力両副会長の補佐役と云うことで、ご返事致した次第であります。

大正十四年四月入学した三十七回生ですが、改めて当時を振り返ります。

どうした事の次第か、幹事長を仰せつかってしまいました。サラリーマン生活三十余年、どこへ行けば「はい」の習ら性となって今度も反射的に「はい」と言ってしまうものの、後悔先に立たずというところでした。

代々の大幹事長、名幹事長のありと受けるに足らずのま、何よりも、他からせき立てられぬと腰の上がらぬノメソコキであります。せいせいお叱りをこうむり、教えていただき、こき使ってもらう以外にないと思っております。

この会報で報告されていると思いますが、去る十一月十一日の東京青山同窓会総会に出席させていただきました。実は昨年三月まで約二年間東京勤務だったので、そ

の間をちらに出席していただのですが、年々盛会になるのには感嘆するばかりです。しかも、玲瓏の天組より、百里流れて、勢が活発であり、女性会員のシャンとしていこと、見事でありました。

新潟の総会も、実行委員や各期の幹事のご努力で出席者が格段にふえております。ありがたいことですが、さらにというポイントはあるように思います。



新任挨拶

各期の会合を活発に!

幹事長 50回上 村光司

(新潟日報)

同窓会は「ねばならぬ」とか、理屈は、もともと不用な集団で、機会あることに集まり、語り合っていること自体が目的みたいなもの。その積み重ねのなから人それぞれが何かを得ることがあれば、それはそれで結構だと考えています。

という次第で、はなはだ心もとないやつだと、自分ながらあきれおりますが、とりあえずは各期の各グループの会合の発展を祈り、さらに総会に結実することを最初

のステップにしたいと願っております。それがこの会報の充実につながる、あるいは財政の維持に力

を身でいただけることになろうと信じています。

随想

「がいろ」

60回上 杉雅之

(校内幹事)

▲医者のおすすめでカイロを貼る羽目になった。昔のカイロ灰に変わってペンジンを使う薄型で厚さは1cmにも満たない代物である。カイロは「抱く」とも思っていたら、最近では「貼る」というのだぞうである。それほど薄いのである。坐骨神経痛で苦しんだ後でもあり、どんなかさばる代物でもがまんして抱こうと思っていたのでこんなに進歩のおかげだとつくづく感謝している。

そして感ずるのだが、あんな小さなぬくもりが身体のほんの一部にあるだけでからだ全体の心地よい暖かさとなって感じられるから不思議である。神経痛で自信を失っていた自分に活気という力を与えてくれる気さくというのである。こんなよろこびをつい生徒にももらしたら、笑われてしまった。

▲本校39回卒の猪 初男氏が、昭和52年度新潟日報文化賞を昨年十一月受賞された。新潟大学医学部耳鼻科教授としての多年にわたる研究業績によるものである。「扁桃と全身疾患」という御研究がその中心をなしている。口の中のほんの小さな臓器にすぎない扁桃が、実は全身の病気に大いにか



日報文化賞

39回猪初男氏輝く受賞

(新大教授)

おめでとう

文化の日に、毎年、新潟日報社が県内の文化向上発展に輝かしい業績をあげた団体、個人に与える。新潟日報文化賞が本年は、新大教授、猪初男氏の「扁桃と全身疾患に関する研究」に授与された。編集部では学会をこの春に控えてご多忙の教授にインタビューをこころみだ。



総会実行委員の悩み

55回 早 福 卓

同窓会総会あとの懇親会場に母校を使う事に問題が投げられたのを機会にして、創立八十周年を迎えることでもあり、総会参加者を大巾に増やそうと云う意味で、鍵實会長、故斎藤幹事長の肝入りで今のような「総会実行委員会」制度が出来たのは確か昭和四十六年からだったと思えます。

初代の実行委員長には、現幹事長の上村光司先輩が就任され、その後の情性で開いてきた同窓会を、会員の皆さんが大勢喜んで参加できるように総会にしようというこころで、その頃の若手層である50回以降の各期から二名位の実行委員を選出して迷案を出し合ったものでした。結果は、小林デパート食

昭和五十二年新潟日報文化賞の栄誉に輝く先生の机の上にはその象徴であるブロンズ像があった。その像をはさんで、先生が物静かに、しかし自信にみちた口調で語って下さった先生の業績のあとを辿ってみることにする。



中学時代、終戦

附属小学校から旧制新潟中学に進んだ猪少年は、当時全国優勝まで成し遂げ意気大いになるポト部に入る。あまり目立たない地味な生徒。であったが、クラブと勉学を見事に両立させ優秀な新中学生として頭角をあらわした。当時の思い出に残る先生に、田中松太郎

堂を会場にしたあ四十六年度総会の大盛況振りとなって実ったのです。余りの盛況さから、会場の狭さに不満の声が多く、実行委員会は翌年の八十周年記念総会から、七百人位が座って飲める会場をと云う事で香港に決めたのでした。会場を香港に決めるまでにはいろいろな意見が出されました。歴史と伝統を誇る天下の名門「青山同窓会」の総会の場としては適当か否かと随分格調高き論争がくり広げられたものでしたが、一度やってみただで会員の評判を聴こう

(英語) 金沢緑郎(生物) 歌川京造(数学) 鈴木要(地理)の諸先生がおられる。

昭和六年、四年修了で、旧制新潟高校理乙に進学。この時代の教師友人とのふれ合いには、しみじみとした思い出が多いとのこと。

二年後輩には現厚生大臣の小沢辰男氏がいる。昭和十三年に新潟医専を卒業、鳥居門下生となる。やがて海軍軍医として従軍、海軍少佐で終戦を迎えた。軍医学校の教官として全国各地出身の軍医の養成につとめられたが、その当時の教え子が現在も毎年十二月八日、関東・関西・新潟で、恩師猪先生を迎えて、会を持ちつづけている。

現在の猪教授の偉大な業績を生むきっかけはこの時であった。終戦で郷里新潟への帰心は強かったと云う事で落ち着きました。爾來六回、同窓会総会と云えば黙っていても会場は「香港」と云う事で定着した感があります。昨年から土曜日に変えたせいもあって、出席者が増加して来たのは非常に嬉しいことだと思っております。私共実行委員の立場にある者にとつて会場問題と会費の額は実に頭の痛い問題です。私達「青山」の良きライバルである「葦原同窓会」は我々の真似をして会場を香港にしたと云う経緯があったのに五十二年度は突然「イタリヤ軒」に会場を変更して総会を実施したそう

が招かれて国立第二病院(旧海軍病院)へ。昭和二十四年頃、こんなエピソードがある。あるアメリカ人のタイピスト嬢が猪先生のもとを訪ねた。「肩がこり、疲れが激しく、時々微熱がでる」とのこと。内科へ行つたところ肺結核気味ではあるが断定できず、耳鼻いん喉に何か問題がないかと廻されてきたものであった。猪先生が診断してみたが、別に特異な異常はない。ところがまた彼女が内科からまわされて来た。「よく扁桃に軽い炎症がおこる」とのことであった。猪先生は決断して手術をした。患者は徐々に快復し見違えるように元気になった。感謝感激したアメリカ人母妹が先生にお礼に来た。しかしこの時猪先生は「自分が恥かかった。自分の知識不足、研究不足を後悔。先生のひたむきな研究生生活はこの事をきっかけに更に深められた。

新潟大学、現在

昭和二十九年森本前教授の後任として招かれ郷土入りされた猪教授は、「扁桃が原因の全身疾患が多い」ことをつきとめていた。「診断の方法」「手術の適不適の判断」など研究のテーマが多かった。

扁桃といえども口の中の一つの重要臓器であり、リンパ節と構造上似ている。更に免疫と深い関係のある臓器でもある。その重要な機能の第一は、「液性免疫」と呼ばれ、口を通じてやってくるバイ菌を倒すための「抗体」を作る作用で、この抗体がいったんできるとそれ以降同じ混入物がくると常にその抗体があらわれて「侵入」を防ぐ。その第二は、たとえばガン細胞などをやっつける(追いつく)ために必要な体内の細胞を動員する作用で「細胞免疫」と呼ばれるもの。つまり扁桃は体内のいろいろな臓器の中で最初に外敵を認識し排除・防衛する役割があるというわけである。

この扁桃と全身疾患の関係に関するの多数の動物実験あるいは臨牀例を著実に集積した長年にわたる功績に対してこのたび、新潟日報文化賞が与えられたものである。昭和四十六年に学会で先生が発表された「扁桃と全身疾患」はその集大成であった。

更に現在では「耳から起こるめまい」が猪教授のライフ・ワークとなり、日本一の業績を誇り、同時に「耳の新潟」として世界的な注目を集めているのである。

※ ※ ※ 「医学という学問だけをふりかざす医者は職人ではないのです。人間愛、特に病める者、弱い者に対する愛がない医者には医者の資格がないのです。」とはっきり云い切られる猪教授の眼の奥には自信と、慈愛に満ちた光が鋭かった。最後に後輩に与えることばとして、「男子いたるところ青山あり」「地元の人情のこまやかさに溺れず、自信を持って飛躍せよ!」と語られた。

帰り際に、先生の業績の象徴であるブロンズ像を手にとらせていただいた。ずっしりと身にこたえる重みに先生の業績の尊さを感じるのだった。

(文書上杉)

五十二年度総会で新役員決定!

同窓会新役員決定

- 会長 鍵富清一郎 19回 留任
- 副会長 阿部藤策 28回 "
- " 等々力英男 38回 "
- " 鈴木正二 37回 新任
- 幹事長 上村光司 50回 "
- 副幹事長 大塚進弥 48回 留任
- " 筑波竜二 52回 "
- " 早福 卓 55回 "
- " 上杉雅之 60回 新任
- " 江口良助 61回 留任
- " 赤村良樹 63回 "
- " 石田瑞穂 67回 "
- " 沢山 巖 35回 "
- " 福山 健 39回 "

渡辺徹君をいたむ

36回 樋口均

青陵健児が朝な夕なに仰ぎ見る青陵健児の像を制作された、新潟市出身の彫刻家渡辺徹氏が、去る一月一日午後九時二十分逝去された。

十月以来直腸ガン再発で、高田馬場にある社会保険中央病院で再手術、加療中で病状はあまりかんばしくないと聞いたのが十一月末だった。

病氣見舞もしないうちに誠に惜しい仲間を失い残念でならない。新潟中学卒業を待たずに東京の豊山中学校へ転校し、東京芸大の彫

刻科を卒業、以後制作活動を、青陵健児の像を制作された、新潟市出身の彫刻家渡辺徹氏が、去る一月一日午後九時二十分逝去された。



やがて落ちついた世の中となり、作品が徐々に認められ、昭和二十七年日展最高賞の菊花賞受賞後は

思い出つきぬ人柄 渡辺徹さんをいたむ

神林徳子 (のとや旅館)

新春早々、新潟市出身の彫刻家(日展会員)渡辺徹さんの死が報じられた。二度目の直腸ガンの手術で、一月中ごろまでもつかどうかと、危ぶまれていることを知り、年明け早々、見舞いに上京する予定をたてていた矢先のことであつた。三十年來の友を失い、気重な正月をすごした。

徹さんと知り合ったのは、昭和二十二年、三年ごろ、当時小小学四年生の長男の絵の先生坂井俊雄さん

に紹介されたのが始まりだった。当時の渡辺さんは、年齢的にも精神的にも脂ののりかけた、制作意欲あふれる三十四、五歳であつたが、芸術より食へる方が先決という日本の暗黒時代であつたため、経済的に苦しく、月々二万円か、三万円の安定した生活費があればと願つておられた。

渡辺さんの純粋な具象作品に、心から好意をよせた私は、早速友達に呼びかけ、後援会をつくる決

日展審査員、新潟県展審査員また教育面で東京家政大学教授、同短期大学教授として子弟の教育にも情熱をかためられた。

同級会、毎年の同窓会総会には時折顔をみせ、物静かで遠慮がちにボンボンと話す彼からは芸術家というイメージは感じられなかつたが、中央に於ては堂々たる彫刻家として、確固たる地歩を築き、幾多の優れた作品を残された。

県内にも青陵健児の像をはじめ、県庁、白山公園、県民会館、公会堂、小・中・高校、新潟日報文化賞授賞者へのトロフィー等々幾多の優れた作品がある。

これからはますます円熟した作品が見られる事を楽しみにしておつただけにやまれてならない。心からご冥福を祈る。(三六(会幹事)

意をし、推せん文を、当時健在の會津八二先生にお願いした。會津先生は、徹さんの人柄と、作品に期待を寄せておられたので、快く推せん言葉を書いて下さつた。

その後、後援会は、徹さんと鏡淵小学校の同級生で当時県議員であつた吉田吉平氏のキモイりで大きく育ち、こうした制作環境のもとで、作品に打ち込んだ徹さんは昭和二十七年、日展最高賞の菊花賞を獲得されたのである。

徹さんの若いころの夢は、新潟に、新潟をシンボライズする等身大以上の大彫刻をたてることであつた。その夢も、県・市・吉田吉平氏、市連合婦人会などの好意で、着々と実現した。

新潟市公会堂前の平和像、陸上競技場の青年の像、県民会館前の裸婦(菊花賞受賞作品)等々、私の知っているだけでも、七つ、八つの作品が、文化都市新潟のシンボルとして、最高の環境に、気品と格調高くそびえ立っている。毎年の新潟日報文化賞授賞者に贈られるトロフィーも徹さんの作品だつた。

随想 想い出す人々

34回 山崎重二郎 (東京青山同窓会会長)

日ごろ静かで謙虚な渡辺さん、大好きな酒が入ると別人のように熱っぽく芸術論を吐き、彫刻のいい意味の、アカデミズムの追究に一生をささげると叫びました。ミロのピナスの腰のひわり具合に魅せられ、それを己が体得す

◎昨年の会報に掲載されている画龍点睛(30回山添直)「野球部の揺らん時代」(原花チユリッ)「共に10回小柳篤二」はいづれも興趣深く且つなつかしく拝見しました。両氏とも在京同窓会の先輩なので、総会でもこんな話をもつと承わりたいものです。

それにしても会報とはありがたきもの、心の通うものを提供してくれませぬ。

◎建川美次中将は私の義叔父に当ります。広島島の騎兵連隊長時代に野球を奨励し、兵隊さんは馬の手入れをこそこにして野球に興じ

までの苦心談等々。ゼスチャー入りでできかされ感銘したものだつた。わが家の茶の間の炉端で、三十年來の常客として、また友として酒をくみ交わし、朝食を共にした思い出は尽きない。

九日の葬儀には、新潟からかけた旧友、後援者をはじめ、美術関係者の参列がひきまきらず、だれからも愛された徹さんの人柄を改めてのべさせた。冬晴れのお宅の庭に、残りの黄バラが二、三輪、徹さんの死を惜しむように鮮やかだつた。ほんとうに、まだまだ生きてよい仕事をたくさん見せてもらいたかつた人である。

兵官は一大野球場と化し、心ある将校から浪人を以て迎えられ、又師団長からも叱責をうけたさうですが、一向に改めなかつたという話が残つておりますところ、その淵源は実に茲にあつたのかと、初めて知りました。

一君と私、35回大倉喜一郎、桜井貞一両君、36回植本正平、魚住政夫の両君などを楽しい一日でした。当時の部員は十数名、毎日肥料運びと水やり、土ほこいで汗を流しました。中庭には色とりどりの開花が見られ、何も働かない他の生徒等をたのませました。

会長も出席 盛大に開催

東京青山同窓会

恒例の東京青山同窓会は、十一月十一日、東京駅大丸デパート・ルビーホールに於て、約三百五十名の参加を得て開催された。今年

は本部より、久々に舞臺会長も上京し、又母校校長になり張り切つている藤田校長、松浪先生、母校幹事の土杉先生、岩田さんと多数の来賓を得ての和やかな会合であつた。元氣な会長を囲んで年

輩の人の輪と、又若い大学在生を含む新進の輪と入り交り、楽しいひとときであつた。東京では各期から若手のクラス幹事を登用したことで、電話による誘い出しなどで、年々参加者が増えている

又、在学生の会費が安いという事も好評のようである。さらに一層の大発展をしようとするので、会員各位におかれてもよろしく御協力と、ご出席を賜わ

留学雑感

66回小 林 啓 志
(新大脳神経外科)

新潟大学脳研究所脳神経外科で毎年新しく加わる若い同僚と酒を飲んだり議論したりしていると、未だに学生気分が抜けず、新潟高卒業以来二十年目を迎えるようにしていることが信じられない思いです。

三年程前、西ドイツのマックスプランク脳研究所に留学し、壮麗なゴシックの大伽藍で知られるケルン市で二年余りを過ごしました。家族二人で出かけ、歩き始めたばかりのドイツ生れの次女を連れて帰るようになった思い出深いドイツ生活を過ごして感じたことなども書いてみたいと思います。

ケルン市郊外の市立病院の一隅の木立の中に建つ木造二階建の研究所は、各国からの留学生や研究者を混えて活気に溢れていました。日本にいればつき合うことのなかったであろうタイプの異なる日本人留学生も含めて、生い立ちや考え方の違う人達との交流を通じて日本を見直すことが出来たこの生活は、私にとって大変意義深いものでした。毎朝十時のコーヒープレイクは、外国人留学生にとってドイツ語会話の良い練習の場でした。しかし、こみ入った仕事の打合せは筆談混りの英語で切り抜け、ドイツ語しか話さない技術員とは、貰つていた「文芸春秋」くらいの

時に器具の図を書いたりしてようやく用を足していた私にとって、最初のうちは、発音聴取の難しさ、話そうとしても急には文が組み立てられないもどかしさに、必ずしも居心地の良いものではありませんでした。やつと短かい会話に慣れてきて、ドイツ人同志の会話では、暗黙の了解に基く省略や代名詞の多用についてゆけず会話の流れに乗りきれないこともありました。しかし、暫らして参加するようにになったブラジルからの女医さんが、特にドイツ語が上手だというわけでもないのに、むしろ、文化風土の違いを武器として独自の意見を展開し、コーヒータムをリードする主役におさまつたのには、目をみはる思いでした。彼女とよく一緒に職員食堂で昼食を摂り、いつも数人で祖国のこと、ドイツのこと、医学のことなど熱中して議論しました。こんな時、なかなか議論に加わることが出来ず、たまに話しても、余りにも自明のことか、的外れのことしかいわない日本人留学生がいますが、その彼が、石油ショックの折、今迄になく雄弁であったことがあります。当時私達の手に入る日本からの情報は、彼が送つて貰つていた「文芸春秋」くらいの

もので、私もよく借りて読んでいました。彼の意見はその論文にもないものでした。ところが後になって彼は、この論文の核心をついた十数ページを巧みに切り取つてから私に貸したことが分かります。情報の寄せ集めを切り売りするだけで独自の意見を述べることのない彼は、相手も同じニューズソースを手に入れば議論にならないことを自身が一番良く知つたのでした。

学校の成績が優秀であった日本人が外国で議論についてゆけず軽んじられるようなことが生ずるのは必ずしも語学力の問題ではなく、自分自身の意見を持ち、場に応じたそれを展開することに慣れていないので、教科書を暗記することによって追われた受験地獄の後遺症ではないかと一再ならず思うことがあります。ドイツ人の議論好きは相対的なもので、パーティの席で政治や文化について夜もふける延延々と論じあいます。各都市毎に町造りが異なり、自慢のビールとワインを持ち、北と南では言葉も通じ難いというお国柄で、四方にある国境を越えるには、教育も文化もがらりと変わることが慣れている為、教科書の模範解答など存在しませんし、又通用しません。何か権威があると思われのもの(例えばNHKとか朝日新聞とか)がこういつているといわれると口をつぐんでしまうという場面はこの国ではまず見られないと思われま

かと思わなところ、その意味をすぐには理解してくれず、やがて外科はミュンヘンで内科と何とはべルリンでと教えた始めたのに驚いたことがあります。ドイツの大学はすべて国立で、高校卒業時の「アビチュア」とよばれる卒業試験に合格すれば、どの大学のどの科目の授業も受けられる資格が出来ます。学期毎に各自希望する大学と学部を選択し大移動が行われます。こうして必要な単位が揃えば医師とか教師の資格を手に入れることが出来ます。希望者が殺到して講座の収容能力を越えた場合は順番待ちの問題が大きくなってきていますが、いわゆる学閥や大学間のランクづけなどは存在しません。医師も教師も社会的地位が高く収入も良いのですが、誰でも目の色をかえてそれを目指すようなことはありません。私達の一番親しくしていた友人は、広生雑誌の写真のわりつけの仕事で、大学は出ていないが第一主任として年上の人達も使い、年の割には高給をとっていることが自慢でしたし、パン屋のマイスター(その道の名人という位の称号)は、パンを焼けば一流だと陽気に暮らしていました。子供の教育の為に親の生活が犠牲にされるといふことは考えられず、夫婦別居の越境入学を理解させることはまず不可能でしょう。学校は午前中だけで、土曜休日のところもあり、算数、理科、外国語が必修でないところも少なくないと聞いていきますが、その数倍の内容を教える込まれている日本人に比

較して実社会において劣っているとは決して思われません。私の共同研究者で又指導者でもあった中堅の脳病理解学者は、生化学的手法を得意としていましたが、仕事を始める時には、まずコンピュータで文献をはじき出し、特にポイントと思われる事については、その分野の一流の研究者の許に直接出向いたり研究所に招いて教わったりしていました。アイデアのひらめきに大きな差があるとは思われませんが、この研究態度

と、彼一人で日本の大学の一講座の二倍余りの研究費を自由に出来る経済的バック、更には三人の技術員(彼の構想に従って実際に実験に従事しデータを揃える助手)に支援される人的システム即ち一つの研究を最も効率良く遂行しようとする組織力とそれを現実させる協力体制に對抗して、日本人の武器としてひたすら知識量と勤勉さだけで必死するのでは、いかにも分が悪いように思われます。こうして折にふれて感じてきた

ことをつきつめてゆくと、改めて教育の重要さを思わずにいられません。知識のつめこみと試験による選別に重点がかりすぎていると、われら今の教育を、実社会において場即した判断を下せるだけの基礎知識と思考の柔軟性と新鮮な意欲を保持することに主眼をおいた本来の姿にもどす為に努力してゆきたいと思つていきます。

かと思わなところ、その意味をすぐには理解してくれず、やがて外科はミュンヘンで内科と何とはべルリンでと教えた始めたのに驚いたことがあります。ドイツの大学はすべて国立で、高校卒業時の「アビチュア」とよばれる卒業試験に合格すれば、どの大学のどの科目の授業も受けられる資格が出来ます。学期毎に各自希望する大学と学部を選択し大移動が行われます。こうして必要な単位が揃えば医師とか教師の資格を手に入れることが出来ます。希望者が殺到して講座の収容能力を越えた場合は順番待ちの問題が大きくなってきていますが、いわゆる学閥や大学間のランクづけなどは存在しません。医師も教師も社会的地位が高く収入も良いのですが、誰でも目の色をかえてそれを目指すようなことはありません。私達の一番親しくしていた友人は、広生雑誌の写真のわりつけの仕事で、大学は出ていないが第一主任として年上の人達も使い、年の割には高給をとっていることが自慢でしたし、パン屋のマイスター(その道の名人という位の称号)は、パンを焼けば一流だと陽気に暮らしていました。子供の教育の為に親の生活が犠牲にされるといふことは考えられず、夫婦別居の越境入学を理解させることはまず不可能でしょう。学校は午前中だけで、土曜休日のところもあり、算数、理科、外国語が必修でないところも少なくないと聞いていきますが、その数倍の内容を教える込まれている日本人に比

較して実社会において劣っているとは決して思われません。私の共同研究者で又指導者でもあった中堅の脳病理解学者は、生化学的手法を得意としていましたが、仕事を始める時には、まずコンピュータで文献をはじき出し、特にポイントと思われる事については、その分野の一流の研究者の許に直接出向いたり研究所に招いて教わったりしていました。アイデアのひらめきに大きな差があるとは思われませんが、この研究態度

と、彼一人で日本の大学の一講座の二倍余りの研究費を自由に出来る経済的バック、更には三人の技術員(彼の構想に従って実際に実験に従事しデータを揃える助手)に支援される人的システム即ち一つの研究を最も効率良く遂行しようとする組織力とそれを現実させる協力体制に對抗して、日本人の武器としてひたすら知識量と勤勉さだけで必死するのでは、いかにも分が悪いように思われます。こうして折にふれて感じてきた

ことをつきつめてゆくと、改めて教育の重要さを思わずにいられません。知識のつめこみと試験による選別に重点がかりすぎていると、われら今の教育を、実社会において場即した判断を下せるだけの基礎知識と思考の柔軟性と新鮮な意欲を保持することに主眼をおいた本来の姿にもどす為に努力してゆきたいと思つていきます。

昭和51年度青山同窓会収支決算書

収入の部		備考
雑 入 金	194,251円	前年度繰越金
入 会 金	616,600円	全年会費1人 400円×1,352人=540,800円 通信制卒業生1人 1,200円×59人=70,800円
会 費	1,717,000円	同窓会年会費 1口 1,000円
雑 収 入	6,950円	預金利子
合 計	2,529,801円	

支出の部		備考
人 件 費	842,775円	職員1人給料手当
通 信 費	366,945円	会費等送、部会、役員会、新年会(郵内郵便料) 通信制卒業生
印 刷 費	64,650円	封筒、部会用紙、字交、決算、案内状(郵印刷代)
電 報 費	33,810円	会員書電報料、贈答(郵印刷代)
迎 接 積 立 金	100,000円	
雑 費	23,278円	
会 報 印 刷 費	350,400円	年2回発行会報印刷代 1回 3,700部
会 議 費	211,200円	物交、新年会、役員会、全通費、クラス会(別冊) 東京同窓会、支那同窓会、東京同窓会(別冊) 東京同窓会
卒業生(有志)品代	132,500円	卒業生(有志)品代
障 害 補 助	65,000円	
通 信 制 補 助	111,500円	通信制卒業生(有志)品代 1人 500円 223人分 通信制同窓会へ補助金として輸出
予 備 費	60,000円	東京同窓会へ補助金
合 計	2,362,058円	

収支差引残高 167,743 (本年庶務部) 昭和52年5月10日 上記の通り相違ないことを確認致します。 監事 福 山 健 ◎ 沢 山 巖 ◎

昭和52年度青山同窓会収支予算書

収入の部		備考
雑 入 金	167,743円	前年度繰越金
入 会 金	610,000円	全年会費1人 400円×1,345人=538,000円 通信制卒業生1人 1,200円×60人=72,000円
会 費	1,700,000円	同窓会年会費 1口 1,000円
雑 収 入	400,000円	表彰金(前年度より繰入)
雑 収 入	5,000円	預金利子
合 計	2,882,743円	

支出の部		備考
人 件 費	1,400,000円	職員1人給料、手当、社会保険料
通 信 費	380,000円	会費等送、部会、新年会、役員会(郵内郵便料) 通信制卒業生
印 刷 費	50,000円	封筒、部会用紙、字交、決算、案内状(郵印刷代)
電 報 費	50,000円	会員書電報料、贈答(郵印刷代)
迎 接 積 立 金	50,000円	
雑 費	17,743円	
会 報 印 刷 費	350,000円	年2回発行会報印刷代
会 議 費	200,000円	物交、新年会、役員会、全通費、東京同窓会、支那同窓会(別冊) 東京同窓会
卒業生(有志)品代	140,000円	
障 害 補 助	65,000円	
通 信 制 補 助	100,000円	通信制卒業生(有志)品代 1人、500円 200人分 通信制同窓会へ補助金として輸出
予 備 費	20,000円	
合 計	2,882,743円	

中国漫筆

60回小 林 享
(株)コバリキ社長

七十七年三月、日本海四県訪中団の一員として四人組追放後の中国を訪れました。表向きは話ご存知でしょうから馬鹿話一つ、食物……満漢全席のTV放映がありました。北京烙鴨店では前菜から髓のスープまでオール鴨料理で、待望の烙鴨子の出るころにはもう腹に入りません。饅頭も六種類は出ますし、茅台酒を始めとして、各地の地酒・ビール・ワイン・ブランドー飲み放題です。十五日間の滞在同じ料理は出ず、全員体重が増えるか、胃を痛めるかでした。

号が青になり、ノン・ストップで突っ走ります。南京長江大橋の歩車道橋(全長四、五〇〇米、下部の鉄道橋は六、七〇〇米)で記念撮影をした際は全面交通止めをしてくれました。万代橋の交通止めで外国人が記念撮影を始めたなら、我が天孫民族はどうするでしょうか。蒙古班……日中両国は、二千年來の交流の歴史があり、一衣帯水の仲と先様が云うので、恰好つけて北京原人の頃から尻の青い者同士ではないかと、ゴマをすってみました。ところが漢民族の尻は青くないのだそうです。慰めて曰く、「解放後青くなくなったのでしよう」と。

孔子……生産活動を破壊し、教育を軽んじたと四人組批判は痛烈で、学校のクラブ活動で四人組の悪事を漫画に描き、幼稚園では江青の人形を叩いて追放の歌を歌います。毎日のことなので暗曲りが、虐めるのも好い加減にしたら。罪を憎んで人を憎まずと云うではありませんか。通訳氏答えて、孔子の言葉を使っではいけません。教育……教育方針は、教育を受ける者を徳育・知育・体育のいずれの面でも成長させ、社会主義的自覚をもつ教養をそなえた勤労者に育てあげることです。学校の先

生曰く、「工場では製品の作り直しが出るが、子供の作り直しは出来ない。中国の未来を担う子供を育てる仕事に誇りを持っている。」農村と都市、農民と労働者、肉体労働と精神労働。この格差を無くする為、下放・学校附属工場・学外講師と教育面でも配属がなされており。青島時代習った蘇州寒山寺の鐘を撞き、揚州の鑑真和尚の法浄寺を歩き、南京の孫文先生(一味方村の先生に非ず)陵に参り、万里の長城で小便し、ゴビの砂漠に虹を見た楽しい旅行でした。

六月も終りに近いある日、全く突然北欧旅行の話が舞い込んで来て、今が不況の真最中であることや、青年会議所で準備を進めていた新潟手づくり広場「このゆびとまれ」のこと、それに青山同窓会の幹事役など、何もかもおぼろぼろ投げて、つい行く気になってしまいました。この下手くそな紀行文を書くはめになったのも、その罪ほろぼしのつもりです。

七月十四日、空港の食堂でウナギと刺身に舌鼓を打った後、蒸し暑い東京を後にして一路コペンハーゲンに向いました。着いてまずホテルのエレベーターの扉が手動式の旧式なもので、シャワーは水しか出ないし、変なところでヨーロッパらしいと感心していたら、ドアのロックだけは新製で、うっかり鍵を部屋の中に置いたまま荷物廊下に取り出して締め出されたり、時差の関係からか、便秘気味で食欲不振が一週間も続くとスベリ出しは必ずしも順調とは云えませんでした。新潟の地元でよく知った方も多く、気楽で本当に楽しい旅でした。

北欧の思い出

69回 石本隆太郎
(石本金属(株)専務)

飲み専門のバーで、二メートル近い大男に囲まれ、日本男子ここにありとばかりに飲んだビールの味は格別でした。次に訪れたストックホルムは、北欧三国の中でも文化・経済等あらゆる面で中心とも云うべきです。人口は旧市内で六十六万人とのことですが、立ち並ぶ建物からの印象では二・三百万人の都市に匹敵すると思われました。中心部には二十階を超える高層ビルもありますが、地震や戦争が無いため百年二百年の古い六・七階の建物が多く、さすがはリトル・パリと呼ばれるだけある美しい街です。ビルの一階はともウィンドー・ショッピングを楽しめるように夜でも照明がともり、飲食店もヘルシンキよりはずっと多くあります。日本ではどうも見られない夜のショー・見物なども楽しめ、この街では色々満足した人も多かったようです。

この国の人口のかなりの部分が外人とのことですが、東洋人、特に日本人は少なく、市内に四百人、スウェーデン全体でも八百人位のことです。日本人の団体もまだあまり入っておらず、街を歩いていても金髪美人ばかりが目につき、本当に異国に来たという感じがしました。

普通の勤労者の収入は平均で月三万円位とのことですが、物価も日本よりは高目で、三十一・四十四%を税金で取られると、共稼ぎをしなければ優雅な生活はとてできないとのこと、六十%以上が

共稼ぎだそうです。しかし福祉制度が行きとどいてるせいでしょうか、街を歩いている人々からはゆとりのようなものも感じられました。

この後、オスロを経て今回の旅行のハイライトであるフィヨルドカントリーをめぐる二泊三日のバス・ツアーに出発したのですが、途中の景観はとて筆舌につくしがたく、バスの中で聞いたエドワード・グレルックのピアノ・コンチ

ももあり、新年会のはこの者もあり、会場の越路会館を上下に走り歩いている者もいた。又、これが、今度決めた花嫁さんですと、連れて来た者もあり、一人者には目の毒なれど、うれしい紹介であった。

エルト、スタルヘルムのホテルからの眺めなど数多くの思い出が重なり、機会があればぜひもう一度訪れてみたいと思っております。最後に蛇足ながら、北欧三国のどの空港でも、トイレの便器の位置がバカ高く付いており、そう短足でないはずの小生でもその度に引け目を感じさせられ、パリでようやくホッとしたような次第です。

56回・57回卒業
二十五周年記念会
卒業して二十五経つたので、去る七月二日、新潟市のいきなりやで大会、はるばる東京を始め各地よりの参集者は、来賓の恩師を含め六十三名であった。

会告
かねて計画中のGB会を一月十一日に、白山会館で開催する。午後一時より理事会、午後五時より懇親会、会費は四千円也。現在までに八十二名の出席予約あり、又、当日に配布できる様に歴代の名簿を印刷作成中である。

会告
青山柔道部OB会
恒例により一月二日開催、参加者は約四十名、今年は嶺大先輩が東京より参加され、草創の頃の思い出話に花が咲いた。新年の事で

会告
山岳部OB会
恒例により一月二日開催、参加者は約四十名、今年は嶺大先輩が東京より参加され、草創の頃の思い出話に花が咲いた。新年の事で

会告
青山バトミントンクラブ
一月二日に新年会を市内「雪国」で開催。又一月十四日(土)には、たまたま新潟で開催された、国際バトミントン競技新潟大会に来港中のスウェーデン・デンマーク、イギリスの各国選手、女性2名男性3名を招待して、約二十名のOBが参集、身ぶり、手ぶりの会話を、国際親善交流の懇親会を行った。会場は、いきなりや、であり、充分に日本情緒を味わってもらい、又、各国のお国ぶりにじかに触れることのできた楽しい一時であった。

会告
山岳部OB会
恒例により一月二日開催、参加者は約四十名、今年は嶺大先輩が東京より参加され、草創の頃の思い出話に花が咲いた。新年の事で

我想い出の記

22回 中沢信吉

小学生の頃、同級生の一家が長岡に引越したので、休みに一週間位遊びに行った。これが旅行の第一回目であり、万代橋も長生橋もまだ木橋であった。数十年後、又長岡に住むとは奇縁である。明治四十五年(大正元年)中学三年生の夏休みに、唯一人で新潟から貨物船に便乗して、北海道に渡り小樽・札幌・室蘭等を廻り、青函連絡船で青森経由で南下し、始めて東京に着き親戚の家に滞在す。折しも明治大帝の御大葬に会し、夜の葬儀を日比谷公園内の暗い所で木によち昇つて拝観した。翌朝乃木大将の自刃を知り驚いた。それから更に京阪地方と伊勢参りをし、九月下旬帰宅す。長期欠席で先生にしがられた。お蔭で勉強する様になり、成績も上り思わぬ拾いものをした。

多少放浪性があったのか、医専入学の薦めなど振り切つて、時の小平校長先生の御推薦を得て、旅順工科大学電気工学科に入学した。その当時外国にある日本の学校は上海の同文書院、奉天の医学堂と旅順の三校のみ。大正四年四月男羅神戸港より海路満洲大陸の表玄関大連に上陸旅順に入學す。旅順はロシアが難攻、不落を誇つた要塞、数千の死傷者を出した苦戦の跡、水師營旅順開城談判の地など、

にもよく会つた。満洲事変も治まり、日本の指導で五族協和の満洲帝国が成立し、着々と理想国家建設が進むが、大東亜戦争の敗戦で一挙に瓦解し、奥地居住の日本人は一家離散や死傷者多く、悲惨の極であった。我家は国籍新日本本社勤務のため、皆無事であった事は不幸中の幸であった。哈原責在十ヶ年の間に四人の子供が出来、満洲に骨を埋める覚悟であつたが、すべて水泡に帰し、在滿二十年敗戦苦悩の中、齡すでに五十の坂を過ぎ、故郷に錦ならぬボロを飾つた只一会社員として、昭和九年若三十七才で動六等の特賞授与が唯一の記念となつた。

敗戦後中国から破壊施設の復旧を命ぜられたが、中華民国軍と八路軍(共産軍)の内乱となり、市街戦の生々しさを見ながら、中国人のトラック隊を雇い、一団を作り長春より南下、奉天経由で島から日本船の迎いで佐世保に帰国した。斯くして破乱の多い人生の大半を終る。生まれ故郷の懐しい新潟に帰り、妻の実家元の金井写真館(明治の洋式建築物として今も保存される)にワラジをぬい

だが、都合により戦災地長岡に移り住み、今小会社を経営して居る。長女は岡山大学の教授(日本に於て始めて人光鉱山でウラン鉱石を発見す)へ、末娘桂はソプラノ歌手となり、中央で活躍し、五十一年度はチェコスロバキア国からメタナ賞を、五十二年度は日本でウィンナーワールド大賞を受賞す。先般母校で初の音楽会を催し下さ

れ、誠に有難く厚く御礼申し上げます。同級生であつた伊藤文光氏、藤田清氏等もすでに他界され、八十才を過ぎた今は外国旅行をしたり、又山登り(スイスのモンブラン、日本では富士山、白馬、白山、御嶽山等)をしたり、又娘のオペラを見に時々老婆と上京する位が唯一の楽しみである。

退をはじめた頭に手をやりながらも意を新たにしたのであつた。宴もたけなわとなり、藤田先生を囲んで、遠き日々の思い出にひ

て、それぞれの分野で活躍の方々、みな多忙をきわめる中を、藤田先生を慕つて集まつてくれた。三年間隔で持つていた本会も、かかる事情で今回は昨年にひきつづいての開催である。三年は待てぬ、毎年是非にという声がしきりにあがる。そしてお世話になつたすべの先生方をお招きしてと再会を約束しながら、秋の夜のふけるのも忘れて別れを惜しんだのである。

終わりに、いつもお世話して下さる幹事の方々のご苦労に衷心より感謝申し上げ、併せて今後ともよろしくご指導下さるようお願いする次第である。



末娘 中沢桂

藤田校長を祝す。

卒業後二十六年、すでに四分の一世紀を経ている。久しぶりの昔なじみからの対面を期して集まつて来たかつての悪童どもも、晴れやかなシャンデリアをまぶしそに見上げ、神妙な顔つきである。過日(五十二年十一月二十五日)シルーホテルで、われらの担任であつた藤田久喜先生が、母校の校長として着任されたことを祝して催された五十九期会である。

藤田先生の昔と変わらぬ御尊顔を拝し、その若々しさと、あふれ出ている貴様に圧倒され、どちらが恩師かと戸惑う有様。

笹川幹事の開会の辞、遠く北海道道苦小牧から駆けつけてくれた敦沢君の乾杯で開宴。藤田先生の、母校の校長として、喜慶健児の教育と母校の発展のために最善を尽くしたい。そのために諸君の持つすべての力を借用したいというご挨拶をうけ、われら中年の新人?たちは、出かかった腹をさすり、後

れ、誠に有難く厚く御礼申し上げます。同級生であつた伊藤文光氏、藤田清氏等もすでに他界され、八十才を過ぎた今は外国旅行をしたり、又山登り(スイスのモンブラン、日本では富士山、白馬、白山、御嶽山等)をしたり、又娘のオペラを見に時々老婆と上京する位が唯一の楽しみである。

退をはじめた頭に手をやりながらも意を新たにしたのであつた。宴もたけなわとなり、藤田先生を囲んで、遠き日々の思い出にひ

て、それぞれの分野で活躍の方々、みな多忙をきわめる中を、藤田先生を慕つて集まつてくれた。三年間隔で持つていた本会も、かかる事情で今回は昨年にひきつづいての開催である。三年は待てぬ、毎年是非にという声がしきりにあがる。そしてお世話になつたすべの先生方をお招きしてと再会を約束しながら、秋の夜のふけるのも忘れて別れを惜しんだのである。

終わりに、いつもお世話して下さる幹事の方々のご苦労に衷心より感謝申し上げ、併せて今後ともよろしくご指導下さるようお願いする次第である。

59回(こ)につどい

退をはじめた頭に手をやりながらも意を新たにしたのであつた。宴もたけなわとなり、藤田先生を囲んで、遠き日々の思い出にひ

て、それぞれの分野で活躍の方々、みな多忙をきわめる中を、藤田先生を慕つて集まつてくれた。三年間隔で持つていた本会も、かかる事情で今回は昨年にひきつづいての開催である。三年は待てぬ、毎年是非にという声がしきりにあがる。そしてお世話になつたすべの先生方をお招きしてと再会を約束しながら、秋の夜のふけるのも忘れて別れを惜しんだのである。

終わりに、いつもお世話して下さる幹事の方々のご苦労に衷心より感謝申し上げ、併せて今後ともよろしくご指導下さるようお願いする次第である。

退をはじめた頭に手をやりながらも意を新たにしたのであつた。宴もたけなわとなり、藤田先生を囲んで、遠き日々の思い出にひ

て、それぞれの分野で活躍の方々、みな多忙をきわめる中を、藤田先生を慕つて集まつてくれた。三年間隔で持つていた本会も、かかる事情で今回は昨年にひきつづいての開催である。三年は待てぬ、毎年是非にという声がしきりにあがる。そしてお世話になつたすべの先生方をお招きしてと再会を約束しながら、秋の夜のふけるのも忘れて別れを惜しんだのである。

終わりに、いつもお世話して下さる幹事の方々のご苦労に衷心より感謝申し上げ、併せて今後ともよろしくご指導下さるようお願いする次第である。

退をはじめた頭に手をやりながらも意を新たにしたのであつた。宴もたけなわとなり、藤田先生を囲んで、遠き日々の思い出にひ

青山同窓会(第2回)

- 一、参加資格 (ア)青山同窓会員
- (イ)新潟高校生徒及びその保護者
- (ウ)新潟高校現・旧職員
- 二、日時 昭和五十二年二月五日(日)午前七時午後五時まで
- 三、場所 新潟高校・青山会館2階洗心・天眞の間
- 四、会費 一、五〇〇円(昼食代、賞品代)ただし生徒は無料とする
- 五、申込み 新潟高校事務室の岩田さんへハガキでも、電話でも、または、直接口頭でもよろしいです。申込みは早めください。その際忘れずにご自分の段級位もお知らせ願います。
- 多数の皆様のお待ちして居ります。

★ 文明が進んだせいか、近頃の子供は、ラブレターならぬ、ラブコールとか、書くことが、面倒らしい。会報こそ、気軽に筆をとってもらいたいものと願つております。そういう意味では、山崎氏の寄稿は編集部として、うれしいものでした。若い諸君も折にふれた寸言をぜひお送り願いたいものです。

★ 総会の度に入口で、会費一口運動をお願いしているせいか、段々納入状況もよくなって来ております。しかし、会費はいくら多く集まっても困るものではありません。一層のご協力をお待ちしています。

★ 今号では、クラス会だよりが例年比比べると少なかった様です。簡単な電話等にも、事務局宛にお知らせ下されば、会報報告としてのせたいと思つております。これは、各クラブOB会等も同様です。★ 編集に興味と関心のある人、あるいは同窓会に少しお手伝いをしてみたいと、奇特な人、おられますか。会報も、今回で二十八年を重ねます。先人の努力に敬意を払いつつ、時代に合せて、先取りしながら少しずつ変えてゆきたいものです。若い人、ヒマな人、等々集まって、新しい紙面を作ってみたいと考えております。自薦他薦の編集者を募集中ですのでよろしく。

青山同窓会(第2回) 幹事代表 内山巖 (旧職員)

青山同窓会(第2回) 幹事代表 内山巖 (旧職員)

青山同窓会(第2回) 幹事代表 内山巖 (旧職員)

編集後記と事務局だより

★ 文明が進んだせいか、近頃の子供は、ラブレターならぬ、ラブコールとか、書くことが、面倒らしい。会報こそ、気軽に筆をとってもらいたいものと願つております。そういう意味では、山崎氏の寄稿は編集部として、うれしいものでした。若い諸君も折にふれた寸言をぜひお送り願いたいものです。

★ 総会の度に入口で、会費一口運動をお願いしているせいか、段々納入状況もよくなって来ております。しかし、会費はいくら多く集まっても困るものではありません。一層のご協力をお待ちしています。

★ 今号では、クラス会だよりが例年比比べると少なかった様です。簡単な電話等にも、事務局宛にお知らせ下されば、会報報告としてのせたいと思つております。これは、各クラブOB会等も同様です。★ 編集に興味と関心のある人、あるいは同窓会に少しお手伝いをしてみたいと、奇特な人、おられますか。会報も、今回で二十八年を重ねます。先人の努力に敬意を払いつつ、時代に合せて、先取りしながら少しずつ変えてゆきたいものです。若い人、ヒマな人、等々集まって、新しい紙面を作ってみたいと考えております。自薦他薦の編集者を募集中ですのでよろしく。

青山同窓会(第2回) 幹事代表 内山巖 (旧職員)

青山同窓会(第2回) 幹事代表 内山巖 (旧職員)

青山同窓会(第2回) 幹事代表 内山巖 (旧職員)

青山同窓会(第2回) 幹事代表 内山巖 (旧職員)

期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名																				
鳥中西藤本丸森山	居條三田間山城	俊新芳之日鏡美彬	夫三郎助吉治寛成	枝岡大逢岡加勝上川	村田石坂田藤見村合部	道正卓一秀光源一	平務信男郎昌也	川北栗高木齋齋坂佐佐	合村原藤原藤藤井藤	賢三一五志和昭隆秀	吉男也免陽郎夫三三	土常寺富永中仁野長	田木崎所井村多崎谷	達哲寿一幹見誠直	一芳高善勇熙俊太	郎郎弘坦章松一郎	小小坂高高成中野橋	賢英英正信禎光保	林山口城橋野田山山	薄江小大川齋佐白相	田口野堀桐藤藤倉墨	聰子一夫雄一之至彦	右皆山阿小上川小	田川際田68部川村崎	史紀紀克晃孝和代貞	朗学肇子一介一子	石磯今遠大大杉竹中	山部井藤阪野本内野	智博誠久雄裕治子
秋五大大大小檜北	元十塚野橋川木村	元十塚野橋川木村	明太弥樹自常基朗一	木黒鬱熊倉小齋	下原川田木品林藤々々	太左玉恒勝一治淳	右成男勇郎平郎三	佐佐木沢塩椎白真鈴	藤藤井藤藤藤見田田	秀義義義義欣正堅	三三三三三三三三三	長保細松三武村山和	助德一輝義源通知	祥昭川哲愨庄幸敬	一吾進夫吉滿茂勝二	保行達一勝栄回	田本野田田間崎田	保行達一勝栄回	田本野田田間崎田	藤村渡和	井井田田	直正一尚昌和	阿小上川小近齋高	部川村崎林藤藤見上	紀克晃孝和代貞正	一介一子子雄果潔	則潤久典秋浩一	野田泉藤谷藤藤川中	則潤久典秋浩一
小檜北榎倉小諏	島池訪口松城野村崎	島池訪口松城野村崎	一泰宏郎男郎治六	佐佐木沢塩椎白真鈴	谷橋田内之本本本	忠達秀洋川健陽	三三三三三三三三三	荒荒有伊井池今市	井井井井井井井井	長正竜徳富義勝澤	昭昭昭昭昭昭昭昭	幸幸幸幸幸幸幸幸	幸幸幸幸幸幸幸幸	二男郎夫司勵教宏郷	介郎子一嘉介助一	田藤口崎村田田杉	田藤口崎村田田杉	田藤口崎村田田杉	田藤口崎村田田杉	内内内内内内内内	海山井崎沢井井藤	昌和回公文武俊	石入大小佐菅田敦	本山林町藤沼宮井	一英泰忠太哲昌聰	郎郎二敏輔浩睦一	直玄信修秀榮秀正	橋山橋山橋山橋山	則潤久典秋浩一
阿相朝井稻内小	部沢妻上泉田崎原	部沢妻上泉田崎原	武文富省計竜	赤池歌永大小小	川川川川川川川川	久芳璋欣回貞正	三三三三三三三三三	折大岡加織小笠籠	原原原原原原原原	昭昭昭昭昭昭昭昭	昭昭昭昭昭昭昭昭	一夫衛己夫策谷彦	一夫衛己夫策谷彦	一夫衛己夫策谷彦	一夫衛己夫策谷彦	藤谷水原馬橋山野	藤谷水原馬橋山野	藤谷水原馬橋山野	藤谷水原馬橋山野	清高塚土窟仲堀松	木見本屋山村川原	陽良睦暉利哲信	池江大風小小小	野部塚間川山山山	次郁謙回隆直哲秋	郎郎二敏輔浩睦一	信正直回建	橋山橋山橋山橋山	則潤久典秋浩一
田田池中原原長	谷川内川中田田崎	谷川内川中田田崎	裕裕裕裕裕裕裕裕	廣廣廣廣廣廣廣廣	藤藤藤藤藤藤藤藤	秀豐夫一元英男八	三三三三三三三三三	折大岡加織小笠籠	原原原原原原原原	昭昭昭昭昭昭昭昭	昭昭昭昭昭昭昭昭	一夫衛己夫策谷彦	一夫衛己夫策谷彦	一夫衛己夫策谷彦	一夫衛己夫策谷彦	藤谷水原馬橋山野	藤谷水原馬橋山野	藤谷水原馬橋山野	藤谷水原馬橋山野	清高塚土窟仲堀松	木見本屋山村川原	陽良睦暉利哲信	池江大風小小小	野部塚間川山山山	次郁謙回隆直哲秋	郎郎二敏輔浩睦一	信正直回建	橋山橋山橋山橋山	則潤久典秋浩一
田田池中原原長	谷川内川中田田崎	谷川内川中田田崎	裕裕裕裕裕裕裕裕	廣廣廣廣廣廣廣廣	藤藤藤藤藤藤藤藤	秀豐夫一元英男八	三三三三三三三三三	折大岡加織小笠籠	原原原原原原原原	昭昭昭昭昭昭昭昭	昭昭昭昭昭昭昭昭	一夫衛己夫策谷彦	一夫衛己夫策谷彦	一夫衛己夫策谷彦	一夫衛己夫策谷彦	藤谷水原馬橋山野	藤谷水原馬橋山野	藤谷水原馬橋山野	藤谷水原馬橋山野	清高塚土窟仲堀松	木見本屋山村川原	陽良睦暉利哲信	池江大風小小小	野部塚間川山山山	次郁謙回隆直哲秋	郎郎二敏輔浩睦一	信正直回建	橋山橋山橋山橋山	則潤久典秋浩一